

## 地域の足を守れ！

院長 小原 眞

昨年4月、定期バスを運行していた岩手県交通が西和賀町から撤退しました。全ての運行が廃止されるのは全市町村で西和賀町が初めてだとか・・・。

たしかに人口減少の著しい当町にあって、乗車率が低く採算が取れないのも理解できますが・・・。西和賀さわうち病院へ通院する患者さんも利用している訳ですから、当院にとっても大きな問題です。また、当町には県立西和賀高校もあり、町外から通う高校生たちの通学の手段にもなっています。

これを機に、町のコミュニティーバスの充実が期待されました。岩手県交通が手を引いたのを良いきっかけにして、住民がより使いやすい便利な交通手段・システムを作っていけばいいのではないかとこのマイナスのニュースをプラスの方向へ代えていく町の力に期待していました。



病院玄関前に設置されたバス運行のモニター

そして今回、町のコミュニティーバスが便数を増やしてリニューアルされました！

さらに、病院の中にバスの運行を表示するモニターが設置されました。バスの現在地、到着までの時間などが表示されて、まるで都会のバスターミナルみたい！！

ちなみに、このバス（「おでかけバス」と呼びます）は乗り降り自由で、町内どこまで行っても料金はたったの100円。75歳以上の方と高校生以下の学生、障がい者や介護者は無料。町役場も頑張ってくれています。

「まだまだ頑張らないと、西和賀町！！」

## 3回目のコロナワクチン集団接種が、西和賀町も始まりました

総看護師長 佐藤 美香

2月、3月はまだ雪が降るので集団接種は難しいと思っていましたが、2月から月に1回、人数は夏の半分程度で開始することになりました。駐車場には巨大な雪カベが残っているため接種してから帰宅までのルートも今までとは違うものにしました。今回は関わるスタッフは院内の職員、医師看護師はもちろんの事、放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、歯科衛生士、看護補助者、医療クラーク、事務職員とほぼ全職種、オールさわうち病院で対応です。不慣れな部分もあるので健康福祉課の職員の応援もいただきながら、2月26日は314人を接種しました。実施してみるとオールさわうち病院もいけると確信しました。3月26日は520人程度を予定しています。その後は4月に2回、5月に1回実施すれば終了となっています。



たくさん雪が残っている中、職員総出で対応しました

今度は4回目の話も出ています。いつまで繰り返し行えばコロナが収束できるのだろうか・・・

それでも「オールさわうち病院」「オール西和賀町」で乗り切りたいと思います。

# 「半年間を振り返って」

内科医師 高橋 健



R4.3.25振り返り講演の後に記念撮影

総合診療科地域研修プログラムの一環で2021年10月からさわうち病院に赴任して残すところ半月となってしまいました。赴任当初は真っ平なアスファルトだったさわうち病院の駐車場が今では至る所に雪山が聳えています。当初は2021年12月までの勤務予定でしたが、勤務初日から、さわうち病院の独特な診療の雰囲気ですっかり魅了され自分自身の成長に資すると直感し2022年3月までの延期を決めました。

自宅がある北上市から秋田高速道に乗り赤く色づいた紅葉の景色を楽しながら通勤していたのが、冬になると様相が一変し、一寸先も見えない豪雪に見舞われた時は、「冬は止めとけば良かったかなー」なんて後悔の念がよぎったりもしました。ある日、豪雪の中、北村先生と一緒に特養の訪問診療に車で向かった際に、北村先生が縮みあがっている僕を見て「一生のうちにこんな経験も必要だよー」と豪快に笑ってる姿を見て、「んー、よくわかんないけど北村先生が言うんだからそうなんだろうな」と思ったりもしました。

一寸先が見えないのは臨床現場でもそうでした。臨床経験や診療能力が圧倒的に乏しい僕に、今まで診たことがない疾患の症例が続々と舞い込んできました。その都度、文献を調べたり、先生方や看護師さん達と相談しながら、患者さんと伴走出来るように、食らいついていきました。最後まで伴走しきった症例もあれば、遥か遠くまで置き去りにされた症例もありました。患者さんの状態が急激に悪化していくのにも関わらず病態の見立てが全く立たず、右往左往しているうちに、そのまま患者さんに逝かれてしまった時は、自分への不甲斐なさで呆然と立ち尽くすしか

ありませんでした。でもまたすぐに新しい患者さんがやってくるので、そのまま突っ立っているわけにもいかず、気持ちを無理矢理切り替えてまた走り出すのを繰り返す毎日でした。全員のご家族を主治医として診させてもらう機会もあり、そのご家族の中の1人が急病で亡くなられて、外来で哀しみにくれている姿を見た時は、「患者さん」としてではなく、家族を亡くし悲嘆する「～さん」としてそこにいました。患者さんは「病を患う人」であると同時に「病を患う他者を思い遣る人」でもあるという、そんな当たり前のことを強烈に意識させられた出来事でした。原稿は400字程度でお願いしますと言われたのに、優に1000字を超えていて果たして掲載してもらえるのかどうか心配になってきました。何だか危なっかしい僕を温かく迎え入れてくれた、さわうち病院の関係者の皆様や患者さんには、ただただ感謝しかありません。どんな形であれ必ず戻ってきて学恩に報いたいと思います。それまで皆さんどうかお元気でいてください。生涯忘れられない半年間となりました。ありがとうございました！！

医療福祉連携室  
高橋 豊宏

すあしを れこづ いるの を方 り病 え さ 覧 した 予定 院た 查二 に 当  
。りの持 俯ま とか内 の環 を取 がり 院も 傍 いた 際 定に 。調 月  
た良 っ瞰す をなから と境 取り も患 目八 だ した 定に 査を 二に 院  
いい た、的。教 いら と思 がり 者も 八 だ した 定に 査を 二に 院  
も病、な えて病 であみ 確に さん 目 だ した 定に 査を 二に 院  
の院風 通て 院は えて 病の 員 よ だ した 定に 査を 二に 院  
でで通 点 くの 気 する 困 院の よ だ した 定に 査を 二に 院

編集後記